

# 「やらされ探究」から「マイ探究」へ!

生徒が主体的に取り組む学習であるはずの探究学習に「やらされ感」を抱く生徒、教師は少なくない。探究学習を生徒、教師が自分事化し、よりよいものとするためにはどうすればよいか、事例を通じて考える。

## Turning Point

探究学習における  
課題設定の  
方針を見直す

「Will」「Can」を重視した課題設定と  
地域とのつながりを通じて、  
探究学習の価値を実感する  
新潟県立中条高校 なかじょうこう

### 生徒の 転換点

- 課題を設定する上で、「Need」より「Will」「Can」を重視
- 多様な社会人と対話する機会を通して、探究学習を自分事化

地域課題であっても、生徒にとっては  
ハードルが高いものとなることも

地域と連携した探究学習に力を入れる新潟県立中条高校。2024年度には、生徒は防災システム、次世代事業の継承など、21のテーマで探究学習の課題を設定し、グループで取り組んだ。企業や行政、大学と連携したその探究学習は、探究学習に関する全国大会で表彰された。

「それでも私たち教師は、生徒の探究学習に課題を感じていました。生徒は人口減少への対応や観光資源の活用などを探究学習の課題に設定しましたが、その多くが具体的な方策を考えるのが難しい課題でした」(横堀正晴校長)

年度末に実施した成果発表会では、自分たち

で実行できるアクションプランを立てられたグループは決して多くなく、現実的ではない計画を述べるケースも見られた。

「成果発表会後、生徒の探究学習に伴走してきた地域の社会人から、『生徒がもっと自由に探究学習の課題を設定できるようにした方がよい』といった声が上がりました。私たち教師と同様に、課題の設定に改善の余地があると感じたのだと思います」(馬場宏教頭)

生徒を対象に実施したアンケートで、24年度に設定した課題に25年度も継続して取り組みたいかを尋ねたところ、ほとんどの生徒が「課題を設定し直したい」と回答した。自校の探究学習を刷新することを教師たちに決意させるのに十分過ぎる結果だった。



1学年主任  
**佐藤達哉**  
さとう・たつや  
同校に赴任して8年目。工業科。



教務主任  
**保坂和洋**  
ほさか・かずひろ  
同校に赴任して6年目。商業科。



教頭  
**馬場 宏**  
ばば・ひろし  
同校に赴任して2年目。



校長  
**横堀正晴**  
よこぼり・まさはる  
同校に赴任して3年目。

## 図 探究学習を支える「伴走役」としての学びと役割転換を促す仕組みづくり

同校は探究学習の刷新に合わせ、伴走役となる教師のあり方を探る仕組みもつくった。「生徒は新しい取り組みに抵抗感を示しません。むしろ、私たち教師が指導観を見つめ直し、新たな役割を担う挑戦が重要です。先生方が気づきや悩みを共有できる場を整備することが、探究学習の充実には欠かせません」(横堀校長)

### 1 2か月に1回の 定例ミーティング

- ・ 職員会議とは別に、探究学習をテーマにしたミーティングを開催
- ・ 生徒の探究学習に伴走する中で生じた悩みの共有などを行う
- ・ 生徒が専門家から学んだファシリテーションやインタビューの技術を、教師同士で実践

### 2 先進校の視察の後には 必ず報告会を実施

- ・ 探究学習の先進校の視察は、できるだけ多くの教師が視察できるよう、管理職が調整
- ・ 視察後には時間割を短縮し、1時間程度の報告会を放課後に実施
- ・ 視察した内容を聞くだけでなく、自校では何をどのように生かすとよいのかを話し合う

※学校資料を基に編集部で作成。

#### 学校概要

**設立** 1910 (明治43) 年  
**形態** 全日制／普通科(2年次から探究教養コース、地域産業コース商業系・工業系に分かれる)／共学  
**生徒数** 1学年約45人  
**2024年度卒業生進路実績** 4年制大は、敬和学園大、新潟薬科大に2人が合格。短大・専門学校進学29人。就職19人。

### 「自分がやりたいこと」を とことん追究して課題を設定

25年度、2・3年生の探究学習の課題設定は、「**What**(自分がやりたいこと)・**Can**(自分にできること)・**Need**(誰かに必要とされていること)」のうち、「**What**」「**Can**」に焦点をあてて、自分が楽しめる課題を自由に設定できるようにした。また、グループ探究だけでなく、個人探究も可能とした。地域の社会人や大学生には引き続き、生徒に伴走してもらうことを依頼した。「生徒にはやりたいこと、できることを大切にしようと呼びかけました。中学生と協働して企画した通学路への防犯灯の設置や、町の中心街に高校生の居場所をつくる放課後カフェなど、地域に貢献するプロジェクトから、2か月にわたる筋力トレーニングを行った結果の分析や文化祭へのアーティストの招へいまで、生徒は多種多様な課題を設定して探究学習に取り組みました」(保坂和洋先生)

「自分が探究学習を楽しみ、他者に喜んでもらった経験は、生徒の中に『これからも自分が



**写真** 1・2年生全員と約80人の地域の社会人による対話。生徒と社会人が1対1で向き合い、フォークダンスをするように、相手を替えながら様々なテーマで語り合った。

できることをやってみよう』という気持ちを芽生えさせたと思います」(佐藤達哉先生)

1年次は、探究学習に必要なスキルを養うため、インタビューやファシリテーション、デザイン思考などについて学ぶ講座を開講。さらに、地域の社会人を招いて対話を楽しむ場を設けた(写真)。1・2年生が伸び伸びと大人たちと語り合う姿を見た教師たちは、地域と連携した教育活動の意義と、生徒の可能性を再確認した。

「生徒が探究学習を自分事化するためには、課題への興味・関心と探究学習に必要なスキル、そして、地域の人たちとのつながりが欠かせません。休み時間にも校内のあちこちで探究学習の話をしている生徒を見て、私はそう確信しています」(横堀校長)